

防火と救急 熱中症予防と感染症対策

梅雨が明け夏本番となるこの時期は、まだ暑さに身体が慣れていないため、例年、体調を崩す人が多くなります。

運動会の練習など、集団で発症した場合に、報道やニュースで多く取り上げられていますが、実は皆

さんの身近で、軽度のものから救急車で運ばれるようなものまで、さまざまな状況の熱中症が多数発生しています。

また、新型コロナウイルス感染症の予防対策を行う際にも、熱中症の対策が必要です。

■身近な熱中症事例

【事例その1】

農業を営む男性が、早朝から畑の草刈りなど農務に精を出し、大量の汗をかき帰宅。朝食を取り休んでいたところ、体の倦怠感と顔の表面や指先にしびれを感じ発熱したため 119 番通報。

1日当たり1.2リットルの水分を補給しましょう。起床時や入浴前後など、喉が渇く前に補給することが大切です。小まめな水分補給を心掛けましょう。



【事例その2】

夏本番前にダイエットしようと、サウナ代わりに車の中で寝ていた女性。そのまま気を失い、発見した家族が救急車を要請し、病院に搬送。

車はサウナではありません。絶対にまねしないでください。



【事例その3】

子どもが車内で寝ているので、起こしたらかわいそうと思い、エアコンで冷えた車内温度が上がる前に用件を済ませようと車を離れた女性。つい時間がかかり車内は高温に。子どもがぐったりしていたため救急車を要請。

子どもを車の中で、決して一人にしないでください。



【事例その4】

のどの渇きや暑さを感じにくくなった高齢者が、エアコンを控え生活していたところ食欲不振となり、体調不良で救急搬送。原因は重症化していた熱中症だった。

高齢者や子どもは熱中症になりやすいので、周りの人が目配り気配り、声かけを積極的に行ってください。



■注意 !! 新型コロナウイルス感染防止で

マスクをしていると熱中症のリスクが高い

マスクを着用していると、皮膚からの熱が逃げにくくなったり、気付かないうちに脱水症状になるなど、体温調節がしづらくなります。

暑さを避け、十分に水分を取り、屋外で人と十分な距離が取れている場合はマスクをはずすなど、「熱中症予防」と「新しい生活様式」を両立させてください。



【令和3年町内の火災等発生状況】

発生区分	5月中	累計
建物	1	3
車両	0	0
火災 林野	0	0
航空機	0	0
その他	0	0
警戒出動	1	8
救急出動	122	570
救助出動	3	6

問 益城西原消防署 ☎ 286 - 2119